

長崎市立図書館「がん情報サービス」のその後

ー行政・医療機関と連動した医療健康情報サービスの展開ー

長崎市立図書館
佐藤美加・西岡由乃

1.平成 25 年度「がん情報サービス」の目的

現在、がんによる死亡率の高さと国民医療費の抑制は、長崎県・市における重要課題である。長崎市立図書館では、地域の役に立つ図書館としての機能を発揮するために、平成 23 年より「がん情報サービス」を提供している。平成 25 年度は、地域の各関係機関との連携・連動を拡大・強化し、複数の機関がそれぞれの役割を担うことにより、予算をかけずに市民が求める医療健康情報を提供することを目的に実施する。

2.方法

- 2-1.目 標：「がん情報サービス」における長崎市立図書館の脆弱な領域を地域連携により補完し、質の高い情報を提供することで、市民に役立つ図書館の実現を目指す。
- 2-2.体 制：長崎市立図書館（医療健康情報サービスチーム）・行政・医療機関と連携
- 2-3.実践①：「がん情報コーナー」リニューアル
- 2-4.実践②：「市民のためのリレー講座 図書館でがんを学ぼう」（全 5 回）の開催
- 2-5.評 価：市民・連携機関・長崎市立図書館職員を対象にしたアンケート調査

3.報告（途中報告を含む）

- 3-1.「がん情報コーナー」リニューアル後の報告
- 3-2.「市民のためのリレー講座 図書館でがんを学ぼう」第 1 回・第 2 回の報告

4.今後の展開

- 4-1.脳卒中など、新たに循環器疾患をテーマにサービスを計画
- 4-2.長崎県、長崎市、医療機関、相談機関と連携・連動することで、医療健康情報サービスの拡大を目指す。（「連携から協働へ！まちづくりのための図書館活用術講座」）

5.考察

これまでに実施してきたサービスの成果を皮切りに、「長崎市立図書館との連携・連動は市民への啓発、情報提供の手段として有益である」という認識が、行政、医療機関に広がりつつあることを実感している。今後は「がん情報サービス」をモデル化し、新しいサービスの創出につなげ、各サービスをチームで発展・継続していくことに重点を置いていきたいと考える。